

「伝統・文化」体感型ワークショップ 【研修編⑥】

刻字の指導について学ぶ（受講者 16 名）

講 師： 美濃 幸男

実施日：平成 22 年 8 月 10 日（火）／8 月 11 日（水）

=====

■目 的：・日本で広告や看板、表札などに見られる刻字を見つめなおし、その技法を書道教育を通して伝統・文化としての刻字の技法を体験する。

■期待される効果：

- ・刻字の様々な技法を知り、その制作意図に適した技法を理解する。
- ・実際に刻字を体験することによって現在まで伝えられてきた文化を知る。

■準備教材・設備等：

刻字したい書、木版、紙やすり、筆記具、カーボン紙、彫刻刀、ノミ、槌、箔、
絵の具、筆、小皿

■研修の流れ（@ 7 時間× 2 日）

スライドによる町の中にある刻字の看板などの紹介、解説

↓

刻字するための書を選びカーボンを使って木版に写し取る

↓

刻字する際の道具と用途の紹介

↓

字体などに合わせて用具を選び彫る

↓

刻字作品の目的に合わせて着色する際の注意点の説明

↓

箔のはり方の説明

↓

落款を押して完成させる

↓

それぞれの作品を発表し、講評する

■Advice points

- ・原稿を書くところから演習を始めると、より刻字する(彫る)工程につながりをもつことができる。
- ・文字数、サイズにより制作過程の時間が変わるため、2 日間の作業にする場合は、1 週間あけると、より作業がしやすい。

■講師の感想（要約）

日本の伝統・文化として育まれてきた刻字を書道教育の観点から捉え、刻字の美しさなどを通して、日本文化を尊重する態度を培う指導を行った。受講者の制作過程の習得度は高く、制作作品の完成度も高かった。街中で見られる書の作品を、意識して見る姿勢も指導することができた。

■受講者の感想（抜粋・要約）

- ・ 刻り方、塗り方等、さまざまな技術や知識が身に付き、自信を持って指導できそうである。
- ・ いろいろな字体の作品を見て心が和んだ。日本の文化・伝統に触れることができ、このようなすばらしいものを生徒たちに伝えなければならないと思った。
- ・ 刻字と毛筆はつながっていることがわかった。書き手と彫り手が同じなのでいろいろアレンジできる。自分の内在する書がよくわかった。
- ・ かご字 → 刻り → 塗りの間で、どんどん作品が変わってきた。作品を見て「刻字は人なり」と思った。
- ・ 今回、より立体的に見せる方法を学んだ。初めて木彫（刻字）を体験し、今後、授業に取り入れたいと思う。

